

**「世界が変わった！？自分が変わった！？
ネパールの農村収入向上を手伝って」**

報告 山上 千尋

2013 年 5 月 19 日、これからやさん 2 階でネパールカレーを食べながら JICA 青年海外協力隊としてネパールに赴任していた 2011 年 3 月から 2013 年 3 月までの活動や派遣前 2 か月間の語学訓練などについて報告させていただきました。

私が赴任したのはネパールのほぼ中央に位置するポカラという町にあるネパール政府の「協同組合登録・研修事務所」でした。

人口の 80%ほどが農業に従事するネパールですが協同組合は組合員 30 名～100 名程度の小規模なものが多く、農業を事業化することにはあまり成功していませんでした。

そこで、政府は協同組合を軸に、農民の収入向上を目指すため協同組合の底上げを手探りで進めていこうと、JICA ボランティアの要請を行ったとのことでした。

私の活動のパートナーである、カウンターパートは配属先事務所の所長で協同組合に人生を賭け、協同組合関連本 5 冊を自費出版、さらには組合の意義などについての歌詞を自作し歌った CD やその歌に乗せて、様々なネパールの協同組合の映像を収録し、所長自身も出演した DVD など作成していました。

ネパールの識字率は低いため、書籍よりも歌の方が農民が理解できると考えてのことだそうです。たいへん仕事熱心な方で、私にとっても勉強になることがたくさんありました。

私が行った 2 年間の活動は、大きく分けて 2 種類でした。1 つ目は、配属先事務所で行われる「協同組合研修」の改善、2 つ目は、管轄地域の農村における農民の組織化と収入向上のお手伝いでした。

研修の改善のために、まずはアンケート調査を行いました。計画では、調査結果をもとに改善案を作成し、実施する予定でしたが様々な理由で、アンケート調査結果をまとめ関係機関へ説明するところまでしかできませんでした。

農村での活動については、ポカラ近郊にたくさんある農業協同組合から 2 組合を選定し定期的に訪問し、組合の会議運営方法について検討したり、組合が主体となって実施するフィールドツアーを企画したりしました。

収入向上に関わる活動としては、農民たちにとって、今必要なことは何か、できることは何かを農民自身が考えていくところから、一緒に会議に参加し最終的にはキノコ栽培を組合の事業として実施する為のお手伝いもすることができました。

ここに書ききれない、失敗、落ち込んだこと、うれしかったこと、楽しかったことはまだまだたくさんありました。

生活面では、乾季になると水や電気が来なくなったり頻発するストライキに悩まされることなどもありましたが、楽しく刺激的な毎日を過ごしました。

ポカラでフェアトレード商品を生産する WSDO (Women's Skills Development Organization) にも何度も通いフェアトレードの生産現場を生活者という立場で間近に感じることもできました。

このように、2年間はあっという間に過ぎてしまいましたが、私にとってかけがえのないボランティア体験となりました。

日本で、ネパールで、私のことを支えてくださった皆さんに感謝し報告を締めくくりたいと思います。ありがとうございました。